

ウータン

(HUTAN)
森の通信

一部 100円
年会費 2,000円
郵便振替 大阪3-3880

ウータン・森と生活を考える会

〒580/大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館*308
Tel.06372-1561(自然を遊ぶ/関西市民連合,事務所気付)

第18号

● 1991年 1月 15日 発行

熱帯木材不使用へ自治体キャンペーン を大きな波に!!

● コソノネ・アクション 報告書

● サラワク先住民代表団来日声明

● ITTO 埋没資源報告 - 大面積森林

● サラワク 新聞記事②

PLEASE SAVE OUR TROPICAL FORESTS!

1 9 9 1



地球と先住民の人権と生活を守るために



あけましておのどこうございます。私たウーダンは89年6月に発足して以来、熱帯林と先住民を守るためにいろいろな活動をしてきました。しかし、これらも熱帯林の破壊を止める効果的な運動になり得ていないのが、さこに喜ぶす先住民たちの命が費がされてきているのです。とりわけマレーシアのサラワクの森林破壊の勢いはすさまじいものです。熱帯木材輸入量世界一の日本に住む私たちがこの現実を多くの国民に知らせ、すぐにもこの輸入を停止させるか大幅な削減にもう込まなければなりません。一方熱帯林保護を考えることは、今の日本の経済利益中心の社会生活を更直すことに他なるはず。以上を踏まえ、昨年暮ウーダンは全の役割分担を新たに組み直し、すつてはありますが動き出しています。

サラワク現地先住民やNGOとのネットワーク、国内「熱帯林ネットワーク」の確立をめざし、熱帯林を守る大きな波をつくり出す決意であります。

スタッフ全員、ボランティアを動いています。皆さんの力強い支援を期待してやみません。今年もヒタをよろしく！

(ウーダン・スタッフ一同)

<ul style="list-style-type: none"> 拡大事務局会議とコンパネ学習会 「ウーダン No.18」発行 大阪府等自治体文庫 コンパネ使用を問う集会 	一月
<ul style="list-style-type: none"> サラワク現況報告会 各自治体と熱帯材使用(コンパネ等)の交渉 議員等への説明 	二月
<ul style="list-style-type: none"> 公開質問状(コンパネ)議会対面 「ウーダン No.19」発行 	三月
<ul style="list-style-type: none"> コンパネ・オースム、全国熱帯林保護団体交流への取組み 海外学習会 	四月
<ul style="list-style-type: none"> 全国熱帯林保護団体交流集会とコンパネ・オースム 「ウーダン No.20」発行 	五月

一九九一年・今後の取組み

HUMAN

目次 (18号)

- ◆ウーダン今後の取組み 2
- ◆ウーダントレーナーFの一言 3
- ◆コンパネアクション(曲田) 4
- ◆自治体申し入れ経過報告
- ◆ITTO 理事会、傍聴報告 6 (大面 裕子執筆)
- ◆サラワク先住民代表団声明 8 (新聞 ニュースより)
- ◆11・21集会報告(井上) 13
- ◆サラワク訪問レポート②(赤田) 15
- ◆ラム・ラインマンの死(井上) 21
- ◆会計報告(物上孝昭) 22 (川本)
- ◆熱帯林ネットワーク団体紹介「JATANの巻」 23
- ◆スケジュール他

●ほんは 世界一の木喰い国。

●ズリボン、サバ、サラワクと毎年破壊が繰り返している。 今年は熱帯材不使用へ自治体キャンペーンを頑張ろう。

—— 面岡 良夫

●初めてサラワクに入りアサンの美しい瞳に感動。 貴い動植物を減らす愚かな行爲は許されるはずがない。

—— 興村 知亜子

●ウーターも「本格的に動くゾク」かけ声だからに慣らんようにがんばりませう。

—— 井下 祥子

●あけましておめでとう。 本年は「日々前進」をテーマにがんばりますので、よろしく。

—— ビンデマヤンモ 川本 美成 (見聞)

●あわせは人の不幸の上にある。

●やっぱり自己紹介はバズします。 というのも誰もが参加できるウーターだといひなあと思っています。 あなにもここに登場をします。

—— 藤宮 早苗

●熱帯林問題は、自分の身近に、そして生活の中に、問われるべき問題があり原因があるようぢやありませんか？

—— 田中 千里

●自分の生活と他の国の人々の生活のつながりを健全な「想像力」をもって考えたいと思います。 よろしく。

—— 泉村 岳史

●「継続は力なり」。今年もマイペースで続けていこう。そして、こまごまなネットワークを広げていこうと思っています。

—— 江村 方孝

●1年度のODAが8%増、888万1億円となり世界のトップです。 しかしその内訳はるや各地で多くの環境破壊を生み出す始末。 熱帯林破壊をさらに進める橋や道路、ダムに使われ、その金も日本にもどっています。

—— 永田 健一

▲ウーター各担当紹介▼

●事務局長	面岡 良夫	0275-233000
●会計	川本 克則	0275-233000
	田中 千里	0275-233000
	井下 祥子	0275-233000
●企画・スケジュール	藤宮 早苗	0275-233000
	大面 裕子	0275-233000
●ネットマーク	興村 知亜子	0275-233000
	江村 方孝	0275-233000
●編集印刷	永田 健一	0275-233000
	江村 方孝	0275-233000
	原田 恵子	0275-233000
●環境教育	原田 恵子	0275-233000
	原田 恵子	0275-233000
●初心者	江村 方孝	0275-233000
	川本 克則	0275-233000

※*用件によって各担当へご連絡下さい。

みんな
熱帯木材不使用へ
自治体キャンペーンを！

ウータン事務局長・西岡 良夫

サラワクでは、一億五千万年かけて育った熱帯林がどんどん切られ、その森で暮らす先住民が伐採によって生活と文化を破壊され、人権抑圧にあっています。

この十一月に来日した先住民の代表団は、「すでに五〇万人が被害を受けている。あと十年足らずで森がなくなる。伐採された木材の大半が日本へ輸出されている。日本のみなさんは、どうか熱帯木材の使用をやめてほしい。」と、環境庁長官や日本に住む私達に訴えました。

サラワクでの伐採量は一五〇万㎡（八九年）で、八割以上が日本へ輸出され、この八割が合板に加工されています。それもこの半分近く（約四〇〇万㎡）がコンパネにされて、たった二回程で使い捨てられています。

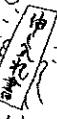
日本は世界熱帯木材の三〇％を輸入する最環境破壊大国です。このまま熱帯林の伐採が続くと、アジアでは二〇四七年に森が消滅すると、米国環境保護庁が警告しています。ヨーロッパ、オーストラリア、米国各地の自治体では、この事態に気づいて熱帯木材の使用を停止する決議や条例を定めるところが多くなっています。オランダのハーグ市、

アメリカではサンフランシスコ、パークレー市など。しかし、日本では熱帯木材不使用を決めた自治体はひとつもありません。最も熱帯木材を使用している国は今後使用を大幅に減らすか、使用しないことが必要です。東京のJ・A・T・A・N、奈良の熱帯林保護ネットワークでは、自治体に熱帯材不使用の申し入れを行いました。私達ウータンも十二月十三日に、大阪府、大阪市に申し入れの交渉をして、また府下全自治体へ『公共事業におけるコンパネ等熱帯木材使用停止の申入書』を送付し、一月に自治体と交渉予定です。今後、ウータンとしての取組みは、私達の生活の見直し、コンパネ等熱帯木材不使用の自治体キャンペーン、商社等への木材輸入中止への運動等です。みなさんもハガキ行動や自治体への申し入れ行動に参加して下さい。

▼コンパネ アクション ▲ 経団報 1981年12月13日、大阪府、大阪市へ第一回目の申し入れをする。

「しっかりせよ、お役人さん。」

9/30 府庁ロビーに面岡、興村、篠宮、永田が集合。関西TVが取材に来ていた。（当日昼の二時を過ぎたにもかかわらず）10/04 本館から離れた辺りまで建物へ案内されるが、コンパネの取材は聞いていない。と少々の変容あり。府側の出席者は、府庁整備室・岡田氏、建築部管理室・結城氏、更工事であった。まず、面岡が府側に申し入れ書を手渡し今回の申し入れの趣旨



説明を行ない、私たちが加わって約二時間余り熱帯雨林消滅と先住民の危機を訴え、これに対し府側は「公共事業は全体の一割を占めない。これらを知強さずともうします。いんすかしの問題で、私たちの課では今のところ何も出さない。上からの指示がくれば別な事が。」と何ら前向きな答へは返さなかった。あらためてお使所

まひりますから。とまでいった。そこで国会議の結果もう一度、関係部局を集めて場をもうけることと熱帯雨林に関する資料を送ることを終らした。あの「花博」で人間と自然の共生を唱った大阪府・大阪府がこんな調子をば……と本当にさげなればかりの1日でした。(NGO)

午後10のころに私たちが大阪市営緑部に申し入れを行なった。これには大面裕子弁護士とメンバリの井下も加わり6名である。テレビ大阪が取材に来ていたこともあり市側もあわてているようであった。大面さんより申し入れ趣旨説明、市側はハイイと低聲勢で弁護士1人入るとどうも違うもんか、大面さんのツッコミもさすがに鋭い、反面私たちが力不足をおもい知らされる。

市側の返答も根本的には解と同じ内容であった。つまりかねに私たちが「では、コンパネ使用停止してくれるには、どこからの指示が必要なのかおしえて下さい。私たちがそこを衝

公共事業におけるコンパネ等 熱帯木材使用停止の申入書

大阪府知事 岸 謙

過去40年以上にわたって、日本の企業はフィリピン、タイ、インドネシア、マレーシアのサバ、サラワク州などの熱帯雨林を次々と壊し、その木材を輸入して日本国内で大量消費を続けてきました。熱帯木材の5割近くが枠型コンクリートパネル（コンパネ）で、2-3回で使い捨てられています。この状態を考えると私達は、公共事業の建設によるコンパネなど熱帯木材の使用停止をするよう貴に申し入れます。

コンパネなど熱帯木材の大量消費は、膨大な熱帯林を食いつくすばかりか、多くの動植物に枯滅の危機をもたらせ、そこに住む人々の暮らしも破壊しています。今、日本は熱帯広葉樹丸太の世界一の消費国であり、各国から環境破壊大国と批判されています。熱帯木材の輸入はマレーシア・ボルネオ島のサラワク、サバ両州から9割以上にのぼり、輸入量は世界中の5割近くを占めています。

そこに住む先住民のブナン、カヤン、イバン、ケラピットなどは焼畑耕作、狩猟をして暮らしていました。しかし、彼等は土地の所有概念を持たず共同体で暮らしていたため、それについで州政府は木材会社に勝手に伐採権を与えたのです。森は壊され、人権侵害は続いています。この違法な伐採などによって世界中で熱帯雨林の破壊は、一年に2000万ヘクタールも消失しています。このままではアジアの熱帯雨林は2047年になくなり、サラワクではあと10年足らずでなくなってしまうと言われています。日本が熱帯木材を大量消費するために伐採が続けば、地球生態系を大きく破壊することは明らかです。もともと熱帯雨林が生えているところは、先住民の土地です。勝手に切るとは泥棒と同じです。この11月に来日した9名の先住民は、「勝手に切った者から輸入して、そして使用するものは泥棒を助けるのと同じだ！日本の人々や自治体、企業は熱帯木材の使用をやめて欲しい。このままでは、我々の食糧も動植物も魚も薬草も全て無くなる。」と訴えました。彼等は生命と文化の危機にたたされているのです。

ヨーロッパ各国では、すでにコンパネや熱帯木材の使用を停止する自治体が多くなっています。このままではますます日本が批判されるばかりです。地球環境と先住民の人々の暮らしを守るために、貴大阪府におかれましては、今後コンパネなどの熱帯木材の使用停止をするよう願います。

1990年12月13日

ウータン・森と生活を考える会
事務局長 西岡良夫

ITTO

第九回理事会終る

—先住民の権利は積み残し—

大西裕子（弁護士）

ITTO（国際熱帯木材機関）の第九回理事会は、去る十一月一六日から二三日にかけて本部のある横浜で開催された。ITTOの加盟国は生産国と消費国とを合わせて現在四七ヶ国である。

世界各地のNGOからの「サラワクの熱帯林と先住民の生活を守れ」の声に抗しきれず、ITTOは一九八九年から九〇年にかけてサラワクに調査団を派遣した。この調査団の調査の方法については、先住民からのヒアリングの場所の設定が恣意的であるなど不十分な点も多かったが、それでも九〇年五月のバリ島における第八回の理事会に提出された報告書では次の点が明確に指摘された。

1 現在のままのスピードで伐採が行われれば、サラワクの木材資源はあと一一年で枯渇する。

2 持続的な森林経営を行うには少なくとも三〇パーセント伐採量を削減する必要がある。

無論右のような削減率では到底サラワク州の熱帯林を持続的に経営し、かつ先住民の森林に依存する生活を守ることは困難であるが、資源の枯渇

と伐採制限の必要性を明確にしたのは大いに意味があった。

そして、今回の理事会ではこのレポートについての討議と決議がなされるということで、その内容が大いに注目され、サラワクから先住民八名が来日し、その討議に先立ちステートメントを発表した。（本誌八一―二ページに掲載）

このように先住民の期待と世界各地のNGOの注目を集めた討議であったが、最終日二三日に出された決議は、大方の予想どおり、まったくといってよいほど評価に値しないものであった。

その最悪のものは、右決議では、調査団のレポートを原則的には受け入れるとしながらも、

1 一体いつからどの程度の伐採量を制限するの

2 先住民の森林に対する慣習法上の権利をどう扱うのか

については、一切具体的な言及はなく、結局すべてをマレーシア政府及びサラワク州政府の努力に期待する形にしてしまったことである。



マレーシア政府やサラワク州政府の政策（対策）に期待が持てるくらいなら先住民はこれまでこんな苦勞をしなくてもすんだし、わざわざ日本にまでやって来て窮状を訴える必要もないのである。このITTOの決議をみても、この機関が熱帯林保護や保全にまじめに取り組む気がないことだけはよくわかった。日本政府は先頃熱帯林保護のためにITTOに六〇〇万ドルの資金拠出をすることを決めたが、これは税金の無駄使いであるから、即座中止するよう申し入れるべきであると思う。

ITTO（国際熱帯木材機関）

熱帯木材資源の保全と有効利用のために、輸出国と輸入国との意見調整をする国際機関として四年前に、おもに日本からの基金をもとに設立された。本部は横浜。現在の加盟国は、四七ヶ国。

しかし実際には、輸出国や木材業界の利益を優先させることが多く、熱帯林保護について効果的な対策を打ち出せないでいるのが現状である。

先住民代表団より第九回 ITTO（国際熱帯木材 機関）理事会への声明

マレーシア・サラワク州政府が一九八九年にITTO調査団を招待することになったのは、何千人もの先住民達の伐採による環境破壊に対する反対が猛であったためです。

一九七〇年代に世界市場に木材を供給するために、サラワクの森は急速に伐採されてきました。一九八九年だけでも一五〇万㎡が伐採され、三〇万ヘクタールの森林がその被害を受けました。これはサラワク史上最大の伐採量です。

木材を得るための森林伐採は、私達の慣習的な土地権を犯すものです。なぜなら、州政府が企業に発行する伐採権や許可には、私達の慣習的な土地も含まれているからです。私達の祖先たちは、何世代もの間この土地と森の中で生活してきました。私達すべての先住民達には長い間に作られてきた慣習的な権利があります。イバン、カヤン、ケニヤ、ケラピット、ルンパワン族たちはみんな

サワワクで生活している限り、土地を耕し、狩をし、林産物を採集してきました。プナン社会の人々は、狩猟をしながら伝統的な移住を行う地域をも定めています。サワワクの土地法では先住民の慣習的な土地権が認められています。しかし、伐採権が発行されたときには、私達の土地と森が伐採活動から除外されるように慣習的な土地の境界がきちんと定められている訳ではないのです。これらの許可が発行された時、私達には全くそれを知る由もありません。ブルドーザーが入ってきて初めて、私達は自分たちの土地と生活の侵害を知るので、許可証には、伐採が先住民の慣習的な土地権を認めた上で行うことがはつきりと記されているにもかかわらず、実際には木材会社は、何度抗議しても、私達の土地と地域は森林に伐採道路を造ってしまうのです。

十年以上にわたる集中的な伐採の後、私達の森は非常に傷つけられてしまいました。伐採会社が行う機械を使った伐採活動は、私達の必要とする果物や木の実、多くの野菜や薬草や、そして動物を呼び寄せる生命の宿っている木々を破壊してしまいました。猪などの動物はその食物である果樹が破壊されてしまったために減少してきています。またその他の天然の資源で、手で細工して籠などに使うラタンの樹などは、私達が収入を得るために何となく重要なものです。以前はこれらを得るために木の問題もありませんでした。魚も豊富で、川は私達にきれ

いな水をもたらしてくれました。今は、伐採が行われている所ではどこでもひどい土壌の侵食が進んで、伐採によって出る廃棄物が小川をつまらせ、私達の水を汚染しています。

健康上での問題は、私達の水が汚染されて、食物が失われるにつれて、増加してきました。また私達の唯一の交通手段である川の通行は、伐採業者が残していった廃棄物によって以前より大変危険なものになってきています。木材搬出用の橋の建設によって、航行はより難しく、危険なものになってきています。森の中の道も通れなくなってしまうました。これに加えて、森林の土壌保護能力も無くなったため、地域での乾ばつや洪水が増えて、私達の作物は多大な被害を受けています。

伐採会社、州、連邦政府の官僚へ何度も要請書を出したり、交渉をしたりもしましたが、これらは徒勞に終りました。一九八七年には、サワワク州政府が私達の土地権と企業者の伐採活動の間に起こった問題にたいして何の対処もしなかったため、私達は一部の地域から代表団を連邦政府へ派遣しました。私達が会った副首相を含む五人の議員たちは私達に同情的でしたが、森林の計画はサワワク州政府の管轄だと伝えられました。

残念なことに、破壊的な伐採が続けられ、私達の仲間はずますず大きな被害を受けています。各地で最後の手段として、私達の土地に侵略する伐採道路の封鎖を行いました。一九七〇年代以来、伐採による被害を受けてき

た個々の村々は、付近の道路を封鎖しました。私達がいくら頼んでも、私達の土地を使い続けたからです。私達の森と土地が破壊されるにしがたがって、特にこの数年間は全ての慣習的に使っている土地ではさらに道路封鎖を行わなければなりませんでした。でも、結局何を得たのでしょうか？ 逮捕と鑑別所や刑務所への拘留です。私達のうちの何人もが何週間も拘留され、ほかの多くの人々は何回も逮捕されました。

私達は、自分たちの慣習的な土地を守っているだけで、これは法律上全ての人に与えられる権利であるにもかかわらず、犯罪者のように扱われたのです。一九八七年の十一月にサラワク州政府が伐採道路への「妨害」を犯罪とする法律を制定した時、私達は驚き、そして恐怖を感じました。この法律は私達の土地にも適用するので。

一九八八年と八九年だけでも二〇〇人以上の先住民達が、この法律のもとに逮捕されました。こんな法律が存在することさえ私達には信じられません。都会に住む人々が自分の庭に入ってくるブルドーザーやトラクタを止めることが出来ないと言われたら納得するのでしょうか？ しかしながら、私達サラワクの先住民たちは今、自分たちの土地と財産を守ると犯罪者に変えられてしまっています！

今まで誰も法廷で有罪判決を受けていませんが、百人以上の先住民たちに判決が待っている状態です。一方、一九九〇年八月には、四人のサラワクのペラガ地区から

来た先住民たちが、犯罪法のもとに六週間の拘留判決を受けました。また、先週、投獄が違法であったとして彼等は最高裁で勝訴しました。

私達はまた、サラワク土地法のもとで私達の権利が保証されるように法廷で訴えかけています。二つのケースが、法廷にかけられています。

私達は、問題の解決のために活動してきましたし、これからも活動を続けていくつもりです。そして、私達は、I.T.T.O.のメンバーの方々に私達の権利獲得のための活動が今始まったものでないことを知っていただきたいのです。ですから、私達並びにサラワクのコミュニティーの人々は、横浜でI.T.T.O.の方々が討議するI.T.T.O.ミツジョンとその報告に大変失望したのです。

なぜ失望したか、を具体的に申しあげます。

I.T.T.O.という組織が、伐採に反対する私達民衆の大きな抗議の声に応えてサラワクへ調査団を送るという話を初めて聞いた時は、私達は希望を持っていました。私達の森は国際貿易の犠牲となって破壊されたので、私達はサラワクで起こっていることを調査団のメンバーの人々が実際に見に来て、伐採で苦しんでいる先住民と話し合うことによって、それによって世界の人々が問題解決のために行動をおこす必要があることに気付いてくれると思っていました。

私達の多くが、私達の村に訪れてくれるようにとクラ

ン・ブルツク氏やサラワク・ミツシヨンのリーダーに手紙を書きました。ところが、私達はサラワク・ミツシヨンが「公聴会」を開くことに決めた街へ行くようにとの返事を受け取りました。しかし、これらの街は、私達の村から遙かに遠いばかりか、交通や宿泊に莫大なお金がかかるのです。

私達は、あとから、地方政府の役人が一部の先住民を連れて「公聴会」のための全ての費用を支払った、と聞きました。私達が知っている限りでは、これら政府から選ばれた人々は、個人的に伐採事業から利益を得ており、地域の大多数の人々の意見や利益を代表していないのです。

私達は多くのお金を差しあつて、なんとかサラワク・ミツシヨンの人が訪問する街へ行くことが出来ました。しかし、私達のほとんどは、調査団がわずか二、三時間の会議であるという理由で、彼等のメンバーに私達の問題を認めることが出来ませんでした。それにもかかわらず、政府から選ばれた人々だけは発言することが出来ました。私達の間でも何が何でも話そうとした人々の中に、やっとの思いで発言することができた人もいますが、充分に話し合うことなどは到底できませんでした。

調査団の人は二ヶ所の村しか訪れていません。その内の一つは、サラワク州政府がブナン人の「定住に成功」例として宣伝用に使っていることで有名な、ムル国立公園近くのパツ・ブンガンです。もう一つは調査団の人々

の便宜を計つて、指定国立公園の近くでした。

伐採によつて破壊されているイバン、ケニヤ、ケラビント、ルンパワン、ブナンの住む土地には、サラワク調査団のメンバーは視察しなかつたのです。調査団の人は先住民が苦しんでいるのを、自分たちの目で見なかつたのです。調査団の人々は「私達は時間がない」と言われました。

私達の慣習的に利用している土地や森、そして私達の生活が脅かされているのです。私達は何年もの間抗議してきました。それなのに、ほんの僅かな期間の訪問で、I T T O ミツシヨンは私達の事態を取り上げないまま、報告書を準備しました。

私達は、まず守られるべき私達の慣習的土地の保護を勧告しないまま、I T T O がどうして伐採量の削減を勧告することができるのか理解出来ません。私達の土地から許可も無く、森林を奪い去っていくのは、泥棒と同じです。私達は、I T T O が泥棒を支持したいとは思いません。

私達は、I T T O の通告に満足していません。I T T O 調査団は、もっと永久林地区を設けるように提案しています。しかし、これらの森の多くは、先住民との土地権をめぐる、論争地域です。このことは、I T T O が木材供給を確保することのみ興味があり、私達先住民の権利やニーズには興味が無いことを示しています。森は単なる木材ではありません。森の中や近くに住む者にとつ

ては、森はまさに私達の命や文化を支えるものです。ミシシヨンの報告書はまた、私達の慣習権がサラワクの法律に基づいたものではないとも言っています。調査団に法律家が一人も随行していなかったもので、どうしてこんな勧告が出来るのかと驚きました。さらに調査団は私達の何人から先住民の土地権に関する重要な先例となる公判がクチンの最高裁で始まったというのを聞いています。しかし、彼等は公判の傍聴にもいきませんでした。

サラワク州政府は、数日前に狩猟採集生活のブナジ人の保護区を設定すると発表しました。サラワクの様々なコミュニティからの要求は、先住民の慣習的土地と森への権利が法的に認められ、確認されることを求めています。私達は、保護区がいつでも簡単に覆われることを怖れています。すでに、法的に保護されているグナングガデインの国立公園では伐採が行われています。こんなことで、どうしてサラワク州政府が言うブナジ人の保護区が狩猟生活をすするブナジ人のためにあると、確認することが出来るのでしょうか？ さらに他に半定住のブナジ人を含む何百千もの傷つけられやすい先住民がいるのです。私達の見解では、I.T.T.Oが私達の土地権と生活の維持、そして将来という最も根本的で重要な問題に対処していません。I.T.T.Oは、持続性について語りますが木材貿易の持続にのみ関心があり、森とそこに住む私達先住民の命には関心がないのです。

I.T.T.O調査団は、私達を裏切りました。もし、I.T.T.O理事会が、調査団の報告書の根本的な欠陥を正さないまま認めるようなことがあれば、理事会も私達を裏切ることになります。

一九九〇年十一月十九日

ジョウ・ジョウ・イボン(ウマバワン住民協議会)
 ジュイン・リハン(ブナ人協会議長)

ジャギン・タンピロン(ケラビット人代表)

ライナス・ユルド・ムミン(イバン人代表)

ドーマス・ジャロン(ケニヤ人代表、S.A.M.)

バル・ピアン(ルンバワン人代表、弁護士)

一九九〇年五月、I.T.T.Oサラワク調査団報告書は、三回の現地訪問を経てインドネシアでの第八回理事会で発表された。討議、承認は横派理事会に持ちこされた。

この報告書では、ある程度サラワク州政府の森林経営の実態について批判しているが、先住民の権利について正面から取り上げておらず、勧告も弱い。報告書ではサラワクの熱帯丸太の輸出量を一三〇〇万mから九二〇万m、つまり今の三〇%程度の削減を勧告しているが、これでは全く不十分で、今のままでは十一年で森林の枯渇が起るとするのを三、四年延ばしただけに過ぎない。

熱帯材を売ったり、熱帯材製品を
買うのは、ドロボーと同じです！

——サラワクの先住民のライナスさんと
バルビエン弁護士もかこんで——

井下祥子

「サラワクの先住民が一〇人くらいITTO（
国際木材機退の会議に訴えるために来日するらし
い。大阪へも呼ぼう。」

急な話であり準備もPRも出来ないまま、集
会に突入してしまった。せっかくの話で大勢の人
に聴いてもらえず残念なので要旨を述べると

ライナスさん(イバン遊)の話



先住民は、街から離れて住んでいます。子供た
ちは七歳くらいから卒業まで、学校で寄宿舎生活
です。伐採は彼らの将来の問題だということ、
彼らにもきちんと教えています。

昔は新鮮な水を川からくんでそのまま飲めまし
た。ほんの五、一〇年前のことです。それが今は
煮沸しても飲めません。誰の目にもあまりにも明
らかなので、子供も母親も道路封鎖（プロッセー
ド）に参加しています。



森を守る先住民の
闘いを語るライナス

バルビエンさん(弁護士)の話

先住民は、土地のどのあたりが自分たちのもの
か簡単にわかりません。「これは、ひいひいおじい
さんが植えたフルーツの木だ」「そこには墓があ
る」「居住していた土地だ」とすぐにわかります。
ところが州政府は、こういった慣習法で守られ
た土地に伐採権を与えてしまっています。ただしこの
許可には、「先住民の権利を守る」という一項が
必ずはいっています。「許可」よりも「先住民の
権利」を優先するはずなのに、実際に企業がはい
つてくると、先住民の権利など無視して墓もブル
ドーザードでつぶしてしまう、開墾地の上もブルド
ーザードで通ってしまう。
こんな状態を政府や議会に訴えていっても、ま
ったく何もしてくれないので、最後の手段として
「人間バリエード」が行われました。政府が何と
かしてくれるのを待っていたら、森林はなくなっ

てしまうでしょう。一一年か、ところによっては五年で消えてしまいます。

日本のみならず、このようにして違法に伐採された木材を輸入して売ったり、その製品である家具などを買うのは、盗まれたものを売り買ひすることであり、人権侵害につながっていきます。どうか、熱帯材製品をポイコットしてください。

●このあと、会場から質問が浴びられ、ライナス・バルビエンソンがそれら答えてくれました。

Q：企業と政府の間に癒着は？

A：伐採許可をもらうための担当大臣などにソデの下を渡します。六千万マレーシアドルもソデの下に使われた例もあり、その「コスト回収」にやっきとなる企業は、規則など守ろうともせず伐採します。また、森林官や警官もワイロをもらい、伐採量を半分に報告したり、ブロッケードの住民にマシンガン突きつけたりします。だから、政府や新聞発表の二倍の伐採量があると考えてください。

Q：一伐採があるから、先住民の雇用につながる」という意見がありますが、実際は？

A：ほとんどは不法入国のインドネシア人やフィリピン人で占められています。彼らは、非常に低賃金で働かせることが出来るからです。

Q：先住民で、あなたのような弁護士は何人くらいいるのですか？その人たちは、先住民の権利のために闘っていますか？

A：一〇人います。しかし私以外は伐採企業に雇われているので、私のように闘うことは出来ません。が、何かあれば協力してくれます。

このあとはいつものように、酒とごちそうを飲みかつ食べながら、友好を深めたのであります。

90.12.3 毎日
マレーシアの熱帯材採掘に悩む先住民
バルビエンソンさん



熱帯材採掘のザララ増進の被害を蒙る先住民の苦闘を伝える。マレーシアの熱帯材採掘は、先住民の生活を脅かしている。先住民の権利を守るために、先住民の代表者が奮闘している。

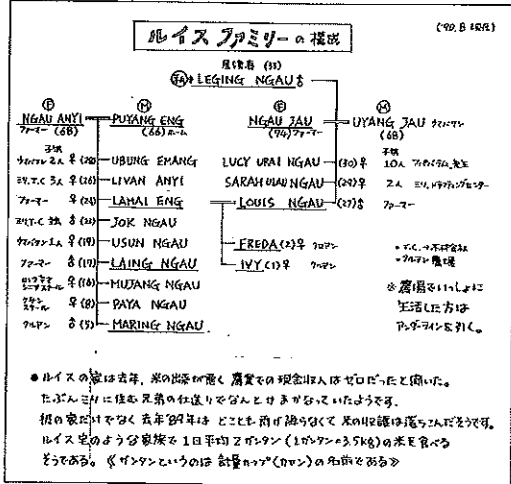
マレーシアの熱帯材採掘は、先住民の生活を脅かしている。先住民の権利を守るために、先住民の代表者が奮闘している。先住民の代表者は、先住民の権利を守るために、先住民の代表者が奮闘している。

先住民の代表者は、先住民の権利を守るために、先住民の代表者が奮闘している。先住民の代表者は、先住民の権利を守るために、先住民の代表者が奮闘している。

先住民の代表者は、先住民の権利を守るために、先住民の代表者が奮闘している。先住民の代表者は、先住民の権利を守るために、先住民の代表者が奮闘している。

マレーシア サラワク飛 **サヨッ ナン!** 1990.8.15~25 都帯林伏線と闘う先住民「ガマン族」のウマバラン村を訪ねて

第(2)回 ●もう、昨年のことになってしまいました。2005年ウマバラン村では陸橋の入り口のシズンです。 文とイラスト：水田健一（ヤンタン）



8/17 ⑤

「村の問題……」

午前中に、少し離れた場所に村人50名ほどと二次杯の伏線に向かう。着いたところは五年の昔に建てた場所を 高台にはラボも建てている。1ha弱の小宮野田で、ここはふたつのマイケルからは火入れはしないはずと思ったりもしたり、これも「共同プロジェクト」の一環であるのだろうか。男も女もマラックをふさい 低木の草を刈ってゆく。みんなマイペースで仕事をしている。あちでマラックをふさいている音もいけば、こちらではジャコロ鳴っている。あしあべりをしてる音、さう色々……。彼らに強制や命令はない。

年中、何かに進められるように働く日本人社会とは大違い、村人の笑顔の白い歯が目につく。人間として本当に人間なもんは 何だろうか、と考えてしまう――。

夕方近くになり、村の端から黒煙が上がった。村の人が村番をさし、「早く行け!」とばかりに私におしえてくれた。私はカメラを巻いてつがみ黒煙の上の方へ行った。火入れはすでに終盤に立ちかかっていた。残念!

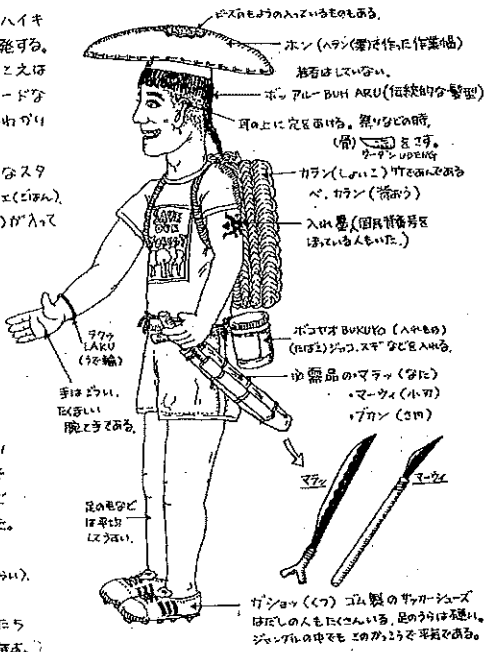
あまり規模は大きくはなかったが、はじめてこの目で見て火入れに感涙! 今夜も、広場で集会有った。ウマバラン村から何人の村人をまじえとの会である。まさしくジョクから「私たちに、共同プロジェクトを再考させてあり、新しい村づくりをしていこうとし

ています。 次第によって私たちの生活も変わってきています。 そんな時にあなたに話を聴いてく
 りてうれしく思う。 私たちはいよいよけんめいやっています。 この村の生活を他の人に
 伝えて下さい。 あなたたちはそれを出来る！ だから奮起する。
 次々と村の人がメッセルをくわる。 今村には色々な物が不足している新しい定番型の農業
 をやる為にはトラクターや車、枝付酒、医者を増や上げるとメリがたい。 だが今抱えている
 ほしいという夢がある。 私たちは各方面でのプロフェッショナルの集団ではない、答えようの
 ない疑問に私たちが頭を悩ませてしまった。
 結局、今こそ出来ることなら一つ一つやってみて話を聞く。 とりあえず村や各家庭の
 ようす(経済的なもの)をやることだ。
 村の集会では、議長のジョウロがいろいろな提案を出す、決定は話し合いの末、村人の総意で決定さ
 れるというしくみがある。 話し合いの間、村人たちはじっと話をきいている、誰一人偉むも
 のはない。

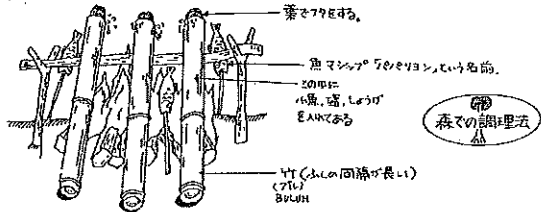
④ 「ハード・ハイキング」

約原とあり、朝7:00 森へハイキ
 ングに総勢50人あまりで出発する。
 ハイキングという大変なことは
 良からしいですが、とてもハードな
 ものになったことはもうおわかり
 になったでしょう。
 村の人たちは石の垣のようなスタ
 イルでカゴの中にはターペエ(紙)、
 アタリ、MILO、パン、油が入って
 いた。
 伐採道路を1時間半歩き、
 道をはずれて森の中へ。
 森の中の小川に出る。
 何とこの水は澄んでい
 た。 一匹づつ魚を釣
 りながら飲んでいた。
 ウマイ!!
 ここから小川を下流に下り
 ながら魚を獲っていくの
 である。 小さな川のおど
 りでジャコは始まっていた。
 (ジャコと魚のさし)
 小魚(一番大きいもの100g以内)、
 ナエル、エビごと出る。
 水をきって歩いていたら私
 たちが、どんどん先に進み

一般の村人の姿 (50歳以上)



につれ、考えのあまさは自分自身をあまされてしまった。 箇などないのである。村の人はすそに水にもぐって、素手で魚をとっている。 滝口さん、水に落ちる。もう一人、男の手まで、これに落ち、一人又一人水に落ちる。 限のまま水に入るのも、気持のいいもんで、どあみか、追いかあみか、はては手づかみ、手づかみ、ア、という間に手づかみで魚をとる。今日はよくとれた方らしい。カゴに、さほどに、なつたところを、昼食になる。村の人たちはあざや、ひささびさぎを料理していく。 クシにさして焼いたり、竹のついでに小魚塩、しょうがを入れた火にかけ、このうまいとこ、
森の葉を血をつく、たり、火にかけ、枝をつく、たり、全く森の恵です。 彼らに感謝——。



昼食後、もどっていくのですが、まだまだ強行軍をして森に入った場所から更に上流へと進んでいきました。 隙、脚を水につかして、など、まだましにして、頭いさし、海のないところもあり、大変、新作さんなど「私を泳げない」と、非難な声も上げておりました。最終的には向とジャングルの中の滝でした。 本当に美しいところで、宿は一本にぶさぶさしました。 熱帯ジャングルの中の川は、澄んをばい、1歩水に入るとすぐにごろごろと、なまみで、

楽しいハイキングを終え、村にもど、たのは、晴、このようなハイキングは2週間ほどは、おん、なで、行く、そう、です。

魚獲りにしても、昔(ルイスが10才ぐらいの時)は60m以上の魚が、あのバラム川に、はくさん、獲れたと、ルイスに、聞、き、ました。

家では、ルイスと私は、ロマンと日本語の交換を、始めて、日、課、にも、な、って、い、ま、す。ルイスはこの島で唯一英語が出来るのですが、今の私、英語、が、ダメ、な、で、か、い、い、思、い、で、す。いつも私に、つ、い、て、く、て、い、る、ラ、エ、ン、(17才)は、学、校、に、行、っ、て、な、い、で、英、語、が、出、来、な、い、が、ルイスに日本語を教えていると、ラ、エ、ン、も、横、に、ま、で、部、に、に、お、つ、て、い、る。本当に勉強とは、こ、う、い、う、こ、と、だ、ら、う、な、と、さ、つ、と、ラ、エ、ン、の、英、語、は、私、は、好、ま、い、だ。

8/19 ㊦ 「日曜日の朝、

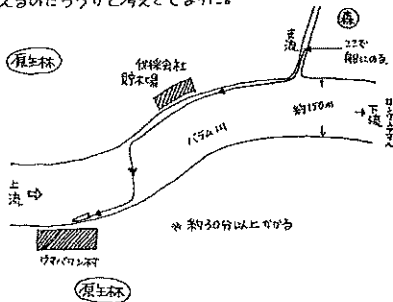


今日は日曜日、農作業は休み。 クルロンに居る人たちは、三々五々、ウマバワン村へもどっていくのです。 又、ウマバワンの人は、キリスト教を信仰しており、日曜のミサに出る為もある、そう、です。 そう、い、え、ば、私、の、父、の、人、の、ガ、ウ、ジ、ョ、ウ、も、首、に、十、字、架、を、か、け、て、い、ま、す。 朝、ルイス、ラ、ハ、エ、ガ、ウ、ア、ニ、マ、リ、ン、グ、フ、リ、ダ、ア、ビ、を、受、け、し、て、私、は、た、ら、4、人、く、ウ、ジ、ョ、ウ、

アーマン、ライエン、私)はウマバワンへ向いました。
 パラムの川岸で船に乗り、プシエを便い船を出荷のぞく。
 水量は極端に少なく、くど流木や泥の抵抗にあい難くなく
 なります。 パラムの本流はもう目の前なのに――。

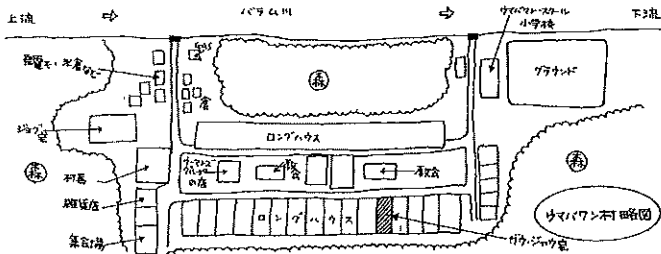


ええい！ しつたない 船を泥にうまってる猪鬃です。 やれやれ今日は汚水まで行けると
 思ったのだが。(いれまへんえ、すぐ都会人は 祭をするのを考えて(まいます、反省)
 やつとパラム川に出たと思ったら、4人をこえているのになかなか前に進まない。
 をりゆどうぞ、何せウマバワンはここから2kmほど上流にあるのですから……。
 え、パラム川の流水も予想外に早いようで、4人を乗せたハローはなかなか前に進まない。
 そんな私たちに少し目には、木村会社のボートらしいものが走りぬけています。 簡単に村へ帰
 るにしてもこの増水は一対向だろうか？ そんなに単純に「あなたちにゃはカヌーでいい。」と言
 えるのだろうかと考えました。



(船をスベ)
 「ガン ハロ、マサッ」と言いながら、
 船は流水のゆるい崖田付
 直をえらんで先へ進む。
 村が見えた！ すぐ下流の伊藤
 会社貯木場付直がである。
 ウマバワン、ピエオを見ていた
 光景だ！ 村の入口は学校側
 ともう一方(正面)の2つあり、
 私たちのメンバーも村に着いて
 ビールを飲んでいかけた。
 店にビールは売っているが村の
 人はあまり飲まない、というよ
 り飲めないといった方が正しい

だろう。 あらんビールが喜んだためである。 彼らの田にビールをカバカバ飲んではどう映った
 だろうか？ 少々卑しいと思うが 私をその中の1人だった。
 ガウ、ジウウ(女)の家へ行き荷物を置く。 ここを初めて母ちゃん、ウヤン、ジウウ(68)に会う。
 とてもお世えていて小柄、甲だせんが肥太している。 大丈夫だろうか？
 「コマン、コマン」という母ちゃんの飾いを昼食をいしよに食べる。



ウマバワン村は8世帯470人、このうち付孫反対系50世帯、賛成派20世帯、中固派6世帯が今の現状です。 村長(世襲制)は賛成派でマレーシア政府から月に900マレーシアドルのワイロをもらっているらしい。

ロングハウスは2階建てになっており、中はかなり広い。 屋根は全てトタン(雨水をたためる為)でもうかなり錆びているし、田中はとても暑い。 2Fは寝室になっている。

入口のドアを入るとガランとした空庭、周囲と作業場を囲んでいるようだ。 奥は台所と食堂になっている とても暑い。 庭に植けると便所と物ほしがある。 これガランの一般的な家である。 最初の部屋にはキリスト教信仰らしくキリストやマリアの肖像が置いてある。

もう一方の壁をみると、カウ・ジヤウの若い頃の絵とも写真とも区別がつかない photo が貼ってあったり、他にも 家族の写真が貼ってある。

台所の燃料はまきとプロパンがあったし、電気も雑貨店の発電機を借用料を払うことで使うことが出来る。(7時6:00から7:00より数時間に限られる)

ビデオカメラのバッテリーがすでに切れていたの、セッティングの中をアラワラする。

私たちの居るとすぐ子供たちが集まってくるが全て男の子。 女の子は陣地をすり抜けてきて出ていってしまう。 その姿がとても可愛らしくていい。

「マイン、マイン!」(遊ぶ)と言って 小学校のグラウンドをバレーボールで遊んでいる。 ほとんどのガキどもがいただろうが、みんなバグンで駆け回っている。

こちらが先にくたばってしまう。 女の子もグラウンドの端を見知っていた。

30分はしただろうが、もう汗でグワグワのままバラム川へドボン!! 子供たちも私たちの後を追いかけてきて川へ飛び込んでくる。 又、川で大暴れ。

この夜、眠る暇は少し 何となく寝られず、とにかく 飯と寝るとどうもどへ行ってもあまりつけない まさに天日かきだろうが。

雑貨店のおじさんのところにある唯一のビデオで去年のFESTIVALのテープを見て、11時にトカドゥ「寝る」をした。

8/20 ⑩ 「巨大な火入れを見る」

今日はクルアンで一番の火入れがあるため再び村人たちは農場へもどっていく。

村を出るための川に出ようとするとウマバワンスクールの朝礼が始まっていて、子供たちはきちゃんと並んでいる。 先生はうん、子供たちの前に並んで立っていた。

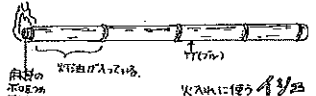
少しの沈黙のあと子供たちは歌を唄いはじめた「マレーアの口歌だろうか?」

私はカウ・ジヤウとハローをいってバラム川を下った。 途中別のモーターボートが寄ってきて、私たちのハローを引っぱってくれた。 ありがとう。 (カウ・ジヤウは早い)

クルアンのラボにもどるとみんなは火入れの準備に忙しかっていて、何せこの川に空は火入れする畑の中になっている為、火がラボに燃えうつらないように葉で作った屋根や荷物を他の場所に移すのである。

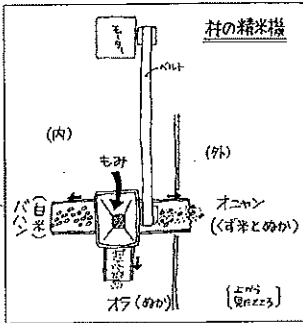
午後1:00 前にむと村人は自分の畑地に何かに行く。 手にはイシを握らされている。

まず2ヶ所を黒煙が上がる。 これが合図であるがのように各方向で火入れがスタートされる。 今回の火入れされる農場の規模は巨大なエリアで3ヶ所だけの大きさに火



入れているのは、戦前に一度あったヨリらしい。 園上から園下へと移動し火をつけていく作業を木が燃え残らないように進めていく。 心配は無用もう彼らはこの道のプロフェッショナルだ。 私は、ルイスのあとについて移動していく。 あっという間に炎と煙は空をみおひ太陽さえも隠れしてしまう。 又、炎が広がる上昇気流で谷から吹き上げてくる風も勢いづく……。 このような壮大な風景も、アマゾンにおいては森林破壊後の光景となっている。 1時間後には至る土地に火入れが済み 田舎には火の海、 村人は農場の入口に集まってきて高見の見物、ワイワイガヤガヤといつもの賑やかだ。

さいわい、ウマバワンをカチラのバッテリーを充電したおかげでこの様子を撮ることが出来た。 みんな広場の方にもどっていくので、同行し農場の様子もカチラに収める。 農場の中心の高台に精米所があり、各家庭の分をここを精米している。 日本ならモミ→玄米→



白米にするがここはモミ→白米→白米→白米。 そのせいか、機械がよくないのか、かみりの米がフボれている。

くず米は、バリエーションに作り出されている。(後記) 夕方6:00 火入れの終えた農場を歩く。 大きな木は燃え尽き、残るは小枝や草は全て灰になって土地の養分となる。

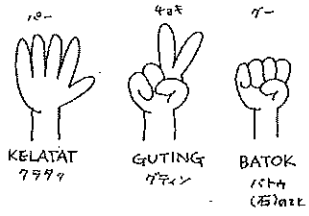
若者には、農場の甲を流れる小川で火入れの熱で浮いた小魚をすくっている。

今夜はどこの家も魚料理のようです。中にはカエルやサズも入っていた。

夜になってもあちこち一面にけいがいにおいげ深い筒の中に入れておく木の棒があった。

(次号に続く)

● JIN KUT V S N where are you going?
 HENO KA TAI?
 ● HENUS N U S N How older you?
 KURI UMUN KAI
 (Kuri)



「じんけん、グー！」というを、
 カヤンでは
 「コンバン、バトク！」となる。

● ② スケルは 敬愛する、兄ものぞけ、(子(孫)に)
 聞かすは 私が 叔父の 言葉を 聞かすは 兄に 話を する 承下 します。

● じんけん (天孫) は 天孫 といふことか……。
 コンバン・バトク・COMPAN
 と

カヤン語
 話
 いろ
 いろ

ラム・ライ・クワンちゃん
12才の女の子・白血病
('90.6月 文脈にて)



ラム・ライ・クワンちゃんの死

『私たちは心から抗議します。』
井下 絆子

前号の「君ちゃんへの手紙」を紹介したラム・ライ・クワンちゃんが生きた。乃才という短い命をされた。三菱化成の現地合弁会社である「エイシアン・レア・アース（ARE社）」が希土を製造するために出る放射能廃棄物「トリウム」を野ざらし、又池にすこぼりしたものの被害者と考えられています。

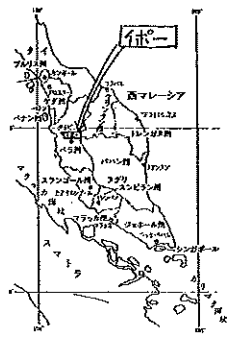
三菱化成をはじめとした関係会社、政府機関に抗議することとはもちろんですが、HラーTVやウイークマンを禁じ、日本の私達はクワンちゃんの死に責任がないと言えませんか？

公害輸出に抗議し来日

マレーシア少女 13歳の死



マレーシアの環境保護活動家、シム・アリン・クワンが、日本の公害輸出に抗議し、来日した。彼女は、マレーシアの少女クワンちゃん（13歳）の死の原因を、日本の公害輸出にあると主張している。クワンちゃんは、日本の公害輸出による放射能汚染で死亡したとされている。シムさんは、日本の公害輸出を止め、環境保護を求め、来日した。彼女は、日本の公害輸出を止め、環境保護を求め、来日した。彼女は、日本の公害輸出を止め、環境保護を求め、来日した。



●新聞には日本企業として名前を出していないが、「三菱化成」の合弁会社が「エイシアン・レア・アース」ARE社である。

8年前に、テレビを向いたところのある「キドガラー」に代表される赤色発光体「レザタス」、半導体などに使う「希土」を製造、操業開始。

上掲の公害輸出活動家、シム・アリン・クワンが、日本の公害輸出に抗議し、来日した。彼女は、マレーシアの少女クワンちゃん（13歳）の死の原因を、日本の公害輸出にあると主張している。クワンちゃんは、日本の公害輸出による放射能汚染で死亡したとされている。シムさんは、日本の公害輸出を止め、環境保護を求め、来日した。彼女は、日本の公害輸出を止め、環境保護を求め、来日した。

▶ ARE事件、被害者あつた！ 君ちゃんまで……
60ページ400円（マレーシアの被害の患者を支援する会編）

会計報告

会計 川本克則

収入

●一九九〇年 上半期

一九八九年繰りこし金	146,702円
会費(89年5,000円+90年2,000円)	100,000円
カンパ	76,295円
朝礼金	54,000円
例会参加費(4回)	59,700円
ウータン(宝通)販売	17,200円
J.A.T.A.N資料	2,000円
物品販売	29,800円
事業収入	20,100円
合計	505,797円

支出

会場費	37,080円
印刷(コピー紙代等)費	53,903円
雑貨代	14,720円
郵送費	69,203円
交通費(3人)	54,700円
謝礼金	15,000円
家賃	28,000円
合計	272,606円

●どうもありがとうございました。今年もよろしく(笑)です(目)
 1990年度 会費納入者 (順不同)

畑 健次郎さん	田中 千里さん	深江 誠子さん
向井 千晃さん	横見 幸子さん	北本 一郎さん
赤田 武彦さん	山内 小夜子さん	林 良二さん
大田 太栄さん	橋本 啓子さん	串田 勉さん
辻村 方孝さん	島本 海童子さん	平野 裕一さん
安達 昌代さん	本領 宏子さん	中津 陽子さん
樫本 慈弘さん	宮川 正さん	黒瑞 和美さん
深尾 葉子さん	江 秀文さん	池山 久子さん
上田 真弓さん	中野 能行さん	市東 弘光さん
面岡 良夫さん	岩下 健一さん	高桑 佐代さん
玉和ワのぼやしえ	春日 美恵子さん	中村 順さん
面谷 陽子さん	小川 真知子さん	因枝 裕子さん
牛島 美成子さん	鈴木 美穂恵さん	吉本 弘子さん
蓮原 耕見さん	平井 英司さん	山口 八千代さん
一橋 要甫さん	尾崎 真由美さん	坂口 誠也さん
福良 美知代さん	新居田 道子さん	遠山 ひろ子さん

(90.12.現在)

●今年より集会・例会等の際、大阪近郊居住の方には、会費名簿に〒E番号を記し、電話連絡をたく考えたりしておりますが、ご都合の悪い方はお知らせ下さい。
 ●尚、2年以上会費を滞納されている方は、退会扱いにさせていただきます。ご了承ください。

いんふめーしょんねっとわーく

今年のウータンのテーマのひとつは、はば広いネットワークを作っているという事です。

環境問題をはじめ様々なことに関心を持ち、行動を起しているという人ほど、はばに増えたりしますが、そういう人達の間の連絡がなかなかうまくつかないというのが現状です。

そこで、このページを、ウータンと読者のみなさんの情報交換・ネットワーク作りの場にしたと考えています。具体的には様々なグループの活動紹介・集会やイベントの情報・本や資料の紹介などを「熱帯林」だけにこだわらずに載せていくつもりです。みなさんからの情報をお待ちしています。

また、みなさんからの御意見やお便りもどんどん載せていこうと思っておりますので、こちらの方を日シク!



「まあ、ホノボノいにか」

ね、とわーさんく

日本熱帯林行動ネットワーク(JATAN)

日本初の熱帯林問題を専門に扱うNGOとして、八七年に結成された。

事務局長の黒田洋一さんを中心に数名の専従スタッフが、熱帯林問題のキャンペーンやシンポジウム、海外との連絡や資料集めに追われている。現在の最大の悩みは人手不足。ボランティアを常時募集中心のことです。

連絡先

東京都渋谷区鷺谷町ワ1ノ

渋谷マンション801号

TEL (03) 377016308

ACTION SCHEDULE

1. 25 (金)

大阪府庁に於いて
第2回申し入れ行動

熱帯木材不仕用に因りての話し合い。

1. 26 (土)

大阪野政会館 Tel. 06-261-1111

（東田田原の会場野政会館）

不運続学習会、第2回
熱帯林は泣いている

「コンパネの現状を聞こう」
（講師）猪俣栄一さん
（徳島熱帯林問題研究所 産地）

2月25日(金) 午後1時～4時
大阪市中央青年センター
（東区東船場下車道5分位の433号）
最新セラワク現状報告会、Part④

「セラワク」
「熱帯のやぶ」に参入せよ
（一部）報告講演 榎田秀樹さん（東京在住）
奥村知雄さん、西岡良夫さん（タマ）
東京を五五五セラワクしおきする裡面して
昨者は何となくの同セラワクしおきするが、
なくともまじめの現地情報と先住民の話を聞き
二部、本セラワク作りのための交流会を予定

コンパネコンクリート用合板型枠

●コンパネは昭和30年代の後半にな
って、セラワク材を使用した厚さ12出
ろ尺×6尺(90×180cm)の合板となって
登場しました。折がらの東京オ
リンピックの建設ゲームに相まって、コ
ンパネを使用した工法は歴史的に昔
及び、戦車で型枠工場のほとんどを
占め、現在も多くの建設現場で使わ
れています。その利点として、
①切欠り貼、②厚さが揃い、③点
散り④びによりも価格が安い。難点
としては、①コンパネを使う現場は作
業がきつい、②ゴミが多く出る（普通
工より出る捨くら出る）

●熱帯林問題入門書があります。
「たむちゃん」熱帯林（分冊）5冊
（財）熱帯林問題研究会/企画発行
●とてもわかりやすい本を環境教育に
目的で使う方は、セラワクまで連絡下さい
送料は別にお金をいただきます。
（送料）印刷部送料350円、送料700円

HUTAN

●数軒の列年の始まりです。
地球環境問題に対する感世が高ま
っている今、成果を上げるには手
おくれにひびいてしまふのはないで
しょうか。熱帯林の不法な伐採
をSTOPするため、そして地球環境
を守っていくセラワク作りにも、
タタの紙面を充実させていこうと思
っています。—— 辻村方孝

●「豊かさ」への追求の影を必要でな
いもの、ジヤマなもの捨て去っていく
北側先進国社会。もう一度、物が
なく、貧しくても温かい心を持って
いた昔を思い起さしてほしいと思
います。

セラワクには、その世が確かに残
っています。—— 水田健一

「セラワク」定例会は、毎月、オウゴヤ
火曜日午後7時より、連合事務所にて行
なっています。—— 徳島熱帯林問題研究所